

を付けて置くことは、若し母親が自身で何かと子供の世話をする時分には、小さい手帳を始終用意して置いて何でも記ける價値のある事が起つた時分に、夫を心覺えに手帳に記して行くことであります。若し他人に世話をさせるといふ時には、其人に手帳を渡して置いて之れを記けさせる様にする。そうでないと、用が多い爲めに、晝間あつた事柄を、さて記入しようとする時に忘れて仕舞ふ心配があるからであります。

次號には、何れ日記記入に付きて注意すべき個條を擧げて見ませう。

ときはなる松のみとりも春くれば

今ひとしほの色まさりけり

(古今集)

思ひ出したるまゝを

女高師教授 岡田みつ子

●米國人の親切という事については、左の一節を御讀みなされば御合點がゆくたろうと思ひます。

私の居りました大學では、毎年九月に新しい一年生が入學致しますと、校長が主人役となり四年生の有志の人が接待掛りとなつて、新入生を招きまして、茶のみ菓子を食べ、その間に互の親睦をはかるのが例になつて居ます。それで私も明治三十五年の九月に入學いたしました時に、此會に招かれましたのですが、知り合ひの生徒はなし、様子は分らず、招かれて嬉しい處か大心配で、出来るならば行かずにすませたいとまで思ひました。處がいつて見ると案外の結果であつたので、その時の様が悉しく日記に記してありますので

す。

上略「今日の會へゆく馬車は私が頼んで上げます。

エー日本服を着ていらつしやい。校長の處へ出るのですから立派にしていらつしやい。どの衣服をさるのか御相談にのりませうか」とまで申されるのはS氏で、よろしく御頼申して教室へいつて見たらば、文學の先生は能く自分の處へおはして、

「けふの會へは御一人では厭でせうから四時十五分に應接所までいらつしやい。私が待ちうけて會場へ連れていつて上げます」

と申さる。之に勢を得て、午前の業を終へて歸宅し午後はいつにもなく大騒ぎをしてトランクの下から衣ものを出す、帯を出す、やうく一人で着終へても氏の御部屋へ見せにいつたら

ば、家の子息は部室の戸の外から私にも見せて下さいと言うてゐる。うちの主婦も出て來られて、上を見下を見、これならばよいと申される。「馬車が來ない、も一度よびにゆかうか」などと、S氏が申されると、主婦はまた「風を引かぬやうにネ。御茶を澤山御のみなさるな。話をなるべくなさい」などと注意をして下さる。そのうちに馬車が來たので子息に送られて乗り移つた。

學校をさして行く道で、けふの會にゆく生徒だろ、さものを着かへた若い人達四五人に逢つた。玄關へ着いて、馭者に五時半に迎へにと頼んで階段を上ると、もう文學の先生は戸口に待て居て下さつた。嬉しくて我を忘れて外套を御渡ししたらば、それを扣室へ置いて「イザ」とて

案内して下さる。

會場にあてられた一室は、けふは戸が一ぱいに開いてゐて、内は人で埋まつてゐる。小さくなつて御あとへついてゆくと「第一に校長と副校長とへ御挨拶なさい」と仰つてその方へ導かれる。幸ひ校長も副校長も手すきだつたので、御二人ともよく來たと喜ばれて學科の様子はどうである。作文の好成績の事をきいたなど、懇に挨拶せられた。それが濟むと、先生は自分を四年生の人に頼んで引まはしてというて居られた。こつちへ來よといはれたので、何だかいろ／＼の人に紹介せられて、日本服のはなしをしたり、袖口や、八ツ口や裾などの様を見せたりして居る程に、御茶と御菓子とをもらつたが、あつちからも、こつちからも話をしかけられる

ので、忙しくて飲む間も食べる間もない。少し一群の人の中に永くゐると、こつちへもどうぞと又他所の一群の方へ引ばれる。夢中になつて時の過ぎるのも知らずに居たが、その中に先生の姿が見えたから。もう歸りますと申したらば「では校長に御禮を申して」とて連れていつて下すつて、その上馬車の處までも御送り下すつた。(下略)

●自分と同じ家に寄宿して居つたG氏という五十才ばかりの婦人は、何事にも自分の意見の定まらぬうちは、人の意見を尋ねたり新聞雑誌の意見をよまぬというた事がある。なるほどこの人は、事々に相應の意見をもつてゐて、人に話しかけられても聞き手にばかりなつてゐる事がなかつた。

●米國にもずいぶん分らずやもあるもので、私の

居りました大學へ、新に入學した生徒の父が自分の娘を寄宿舎へ入れるについて、最上の部屋を取りたいというから係りの人が「それはいけません舊生徒にあてはめた残りの中で御撰びなさいというたらば「イヤどこそこの學校では自由にさせるから、此の校でも」と言ひ張る。いくら言うたとて取り上げなかつたので、仕方なく幾人も幾人も先生の訪問して、同じ問題をかつぎまはつて居つたという話をききました。

●之も同様また聞きではあります、新入生が食卓で朋友の誰れ彼れと並びたいと、係りの人に申し出した處が、そういう都合には行かないといはれたらば、其の申草がいかにも面白い、アメリカ的で、「いくら御金を出したらば出来ますか」と●二人の米國婦人が歐洲へ旅行した時の話をして

居りましたが、一人が「英國の人は忠君の情が厚くて 女皇陛下の崩御の報の傳はるや否や、人はみな黒い衣服に着かへ、間に合はぬ人は腕に黒布をまとうて居つた」など、話して「それからエドワード皇帝の御即位式の時に一人の英國人が自分に対して、あなたも王様といふものが欲しくはありませんか」と尋ねたから、「イヤ王に對してはどいう考のうかぶものか想像がつかない」と答へたと申しましたらば一人は「ホンに王とても天皇とても私にはその方々に對して特別の感じは起らぬ」と答へました。傍に聞いて居た私は、少なからず驚きました、米國の人としては當然の考へなのでせう。

●日本では洗濯屋といへば下等の商賈ですが、米國ではスミス大學の卒業生が洗濯という事に就て

はまだ十分の研究をした人がないからとて、私が在米中に、試みに洗濯屋を開業しました。萬事よく注意してやるとかで評判がよう御座いました。私の居つた大學の卒業生も二人共同して旅館を開業しました。とにかく大學の卒業生でも、高くまつて上品ぶつて居ない處が價值です。

●今の世の生活のむづかしい！。私の居たうちの息子にかは、立派に大學を卒業した若ものでしたが、さて職業を見附けるとなると容易に見付からず、一月も二月も空しく遊んでさて出来たと思ふと、朝は六時とか七時とかから夜は六時まで俸給もいくらでもないらしい御座いました。財産がなくて世の中へ出やうとするには相當の教育があつてさへ、この通りで米國での世渡はむづかしいのです。この人は男子だからいやな顔もせ

ず、家を離れて一週間アクセクしてゐましたが、土曜の晩に歸宅した時の嬉しさうな顔、日曜の晩に戻つてゆく時の進まぬ様子は傍で見ても氣の毒でした。やさしい母親が土曜日にはもう待つて居て、好きなものを料理をしたり、一所に散歩したり、一所に音楽をやつたり、出来るだけの愉快を與へやうと勉めるので、これがその若もの、最大の樂みに相違なかつたのです。この樂みがあるから厭な仕事も進んでするので、實にこの母子の關係は美はしいものでした。

●ラスキンの申した處に面白い事は澤山あります。「人は心を見がき徳性を養うためには終生戦はなければならぬが、体力及び才能には限りがある。その限りを知らず、腕が疲れ脳がいたむまでも務めて偉大の事をしやうとの野心を起すのは愚で

ある。すぐれた人は苦しむ事なくて大事を果たす。
世の人この秘密を解したらば、その生涯の幸福が
いかにかりだるう」といはれたのが、何だか深く
身に染みていまでも記憶して居ます。

子供が眞似をすることは大切な事である。言語も初めは眞似
て出来たものである。お神樂の眞似、電車の眞似、まゝ事、
等數へ来れば摸擬と子供とは大變な關係がある。従つて子供
には劇的の遊びが中々に多い。然るに今日まだお伽芝居に
する研究が少ないのは遺憾である。

貞一の日記

(承前) (明治三十六年) (五月生男兒)

その母

二月廿二日 家の人ばかりの時は、何でも唱へど
他の人が来りて、何か歌へといふも、中々歌は
ぬに、今日は、林ふみ子さん、來訪せられし時、
御馬の歌や、荒城の月などを、幾度も唱ひたり、
安田さんが、貞チャンの足袋片方頂戴といへば
わげると乏食になるといふ
朝、牛乳一〇〇瓦、飯一椀、味噌汁少量
晝、飯三椀、いなだ、(煮魚) いそべせんべい
二枚おやつ、牛乳二〇〇瓦、カステラ
夕、飯二椀、生鶏卵一個、いそべ二枚
便通なし、
二月廿四日 朝九時頃強震あり、ピアノの上の獅
子落ち來りしに驚きて泣き出す。